

子供達に科学を楽しんでもらう試み ILC かるた

SATテクノロジー・ショーケース2018

■ はじめに

国際リニアコライダー(ILC)は、世界の49の国と地域の300以上の大学や研究所の科学者やエンジニア2,400人以上が参加する国際的な取り組みである。対面する2つの線形加速器で構成されているILCは、電子とその反粒子である陽電子を加速して衝突させ、ビッグバンから1兆分の1秒後の状態を再現。宇宙創成の謎にせまる。

世界の高エネルギー物理研究者のコンセンサスとして、ILCの最有力建設候補地は日本となっている。非常に大規模なプロジェクトとなるため、課題なるのが一般の方のプロジェクトに対する理解増進である。

いわゆる「テクノロジー」とは趣を異にするが、ここでは高エネルギー加速器研究機構で実施している「かるた」を用いた広報活動の技術について紹介する。

■ 活動内容

1. かるたの企画

「素粒子物理」や「粒子加速器」という、子供達には馴染みのない難解な分野について知ってもらうための広報媒体を検討する中で、つくば市の「環境かるた」の取り組みがヒントとなり生まれたアイデアが「ILCかるた」の制作である。

かるたの文字札は、ILCの広報媒体である「ILC通信」、ウェブサイト、Twitter、Facebookを通じて一般公募し、応募総数666の中から47作品を選定した。絵札は、プロのイラストレーターに画像の作成を依頼した。

2. かるたを使った広報活動の実施

かるたのデータを希望者に配布するとともに、子供向けイベントでかるた大会を実施。また、出前授業でも使用している。参加者からのアンケート結果でも満足度は高く、広報活動の「かるた」という古典的な手法を活用することが、以下の効果により有効であることが推察される。

- 「遊び」効果：勉強の敷居を下げる
- 「勝負」効果：勝つために文字札を覚えたいくなる
- 「繰り返し」効果：楽しいので何度も行いたくなる

3. かるたの販売

広報活動の参加者から、多くの印刷版かるた作成の希望が寄せられた。しかし、ノベルティとして無償配布するには単価が高くなりすぎるため、商品として「販売」することにした。これまで800個以上が販売され、自治体による学

校への配布などが行われている。

■ 課題・今後の展開

企画当初から、販売を計画していたわけではなかったため、事後に販売に向けた権利関係の整理、契約上の問題の確認等が必要となり、販売実現に至るまで煩雑な手続きを要した。

研究機関の制作する広報媒体は、通常無償で配布することが通例となっているが、役に立つ、相手に喜ばれる媒体を制作し、それを販売することでより多くの方へと届ける可能性が拓けることが、今回の事例で確認できた。

フォローアップの取り組みとしては、かるたを活用する中で「文字札の意味がわからない」との声が多く寄せられたため、文字札の意味を解説する絵本の作成を企画中。かるたとのセット販売を視野に、当初より商品化を前提に調整を行なう予定。



写真: 小学生向けサイエンス教室における ILC かるた大会の様子
(岩手県遠野市綾織児童館)

代表発表者 **高橋 理佳(たかはし りか)**
 所属 **高エネルギー加速器研究機構
ILC 推進準備室**
 問合せ先 〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1
 TEL: 029-879-6291 FAX: 029-879-6246
 Rika.takahashi@kek.jp

■キーワード: (1) 加速器
(2) 素粒子物理
(3) 広報

■共同開発者: 大森 恒彦 (KEK 素粒子原子核研究所)
 藤本 順平 (KEK 素粒子原子核研究所)
 小林 敦子 (KEK 広報室)
 白形 富子 (KEK 加速器施設)